



令和5年度公演の様子

鯖江市の伝統芸能団体「鯖江人形浄瑠璃「近松座」」、「かわだ狂言クラブ」  
による公演会を開催します。

# 第14回 人形浄瑠璃・狂言 in かわだ

古典の日記念

- 鯖江人形浄瑠璃「近松座」…人形浄瑠璃「けいせいあわのなるとしゅんれいうたのだん傾城阿波鳴門順礼歌の段」
- かわだ狂言クラブ…河和田版「かきやまぶし柿山伏」  
河和田版創作狂言「ぶすあいうえお」、「うるし(附子)」、  
小舞「ぬし塗師」、狂言ワークショップ

令和7年 2月9日(日) 13:30 ~ 15:30 ※開場 13:00

会場 河和田公民館 3階ホール (鯖江市河和田町 19-6-1)

入場料 無料 ※入場には整理券が必要です。※全席自由

整理券 下記の場所にて事前に整理券を配布します。  
鯖江市まなべの館・河和田公民館・立待公民館

主催 鯖江市・鯖江市教育委員会

共催 NPO 法人かわだ夢グリーン・鯖江人形浄瑠璃「近松座」

13:30 ~ 13:40

開会挨拶等

13:40 ~ 14:10

1部 鯖江人形浄瑠璃「近松座」

けいせいあわのなるとじゅんれいうたのだん

## 人形浄瑠璃「傾城阿波鳴門順礼歌の段」

阿波徳島の藩主、玉木家の重宝である名刀「国次」が盗まれ、家臣の阿波の十郎兵衛は、名刀を取り戻すため銀十郎と名前を変えて盗賊の仲間となり、女房のお弓と共に大阪に住んでいた。お弓が留守を預かる間に巡礼の娘が訪ねてきた。身の上を尋ねると3歳の時に祖母の手元に残した実の娘のお鶴だった。愛しさのあまり名乗って抱きしめたい思いにかられるが、子供に災いがふりかかることを恐れ、涙ながらに追い返す。今別れては二度と会うことはできないとお弓はすぐに後を追うのであった。

## 鯖江人形浄瑠璃「近松座」

座長 / 大橋 國利  
大 夫 / 南 和彦  
三 味 線 / 栗山 祐子・松本 真由美・松本 陽菜

人形遣い / (お弓) 徳井 公一・北 静子・牧野 裕美  
(おつる) 松本 実夕・小山 藤枝・山内 美代子  
手元・鈴 / 瀧谷 えみ子  
口上・スタッフ / 佐々木 淑子・青木 茂男・桃井 穂宝

14:10 ~ 14:20

休憩

14:20 ~ 15:30

2部 かわだ狂言クラブ

河和田版<sup>かきやまぶし</sup>「柿山伏」ふるさと狂言クラブ

殿上山で修業を終え、里に下りてきた山伏が柿の木を見つけ、無断で柿を食べていると、畑の主が太郎冠者と見回りに来た。盗み食いしている山伏を猿じゃ、鳥じゃ、鳶じゃとこらしめる・・・。

## 河和田版創作狂言「あいうえお」齋藤 信富 トンホンサー愛里

わが子が年頃になったので勉強させようと、母親は五十音から教えようとするが、子は筋違いな返答ばかり。そこで親は、自分の云う通りにおうむ返しの口真似で憶えよと命じるが・・・。

小舞<sup>ぬし</sup>「塗師」齋藤 由紀 齋藤 信富河和田版創作狂言「うるし<sup>ぶす</sup>(附子)」根本 泰佑 根本 るみ子 堀岡 直未

主人が、太郎冠者と次郎冠者にかずら桶を見せながら、「これは毒じゃ。よって、向こうからの風にあたっただけで死んでしまう。しっかり留守番をするよう」と言いつけて出かける。主人の言葉を信じ、ビクビクしていたが、太郎冠者が「見たい！」と言いだす。桶からの風を浴びないように扇ぎ返して近づけば大丈夫だとの太郎冠者の案に納得し、2人は無事に近づき蓋をあけた。しかし、毒のはずが、どうにも美味しそうな物に見えた太郎冠者は一口食べ・・・。

## 狂言ワークショップ

狂言「塗師」の説明と会場の皆さんに「笑い」を楽しんでいただきます。



会場

河和田公民館 3階ホール  
鯖江市河和田町 19-6-1

お問合せ

鯖江市教育委員会 文化課 ☎ (0778)53-2257  
NPO法人かわだ夢グリーン ☎ 090-2036-1935